

平成21年度病害虫発生予報第1号(4月予報)

<お知らせ> トマト黄化葉巻病の防除に関するお知らせがあります(本号9頁参照)。

今月のトピックス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>



※雄成虫



※雌成虫

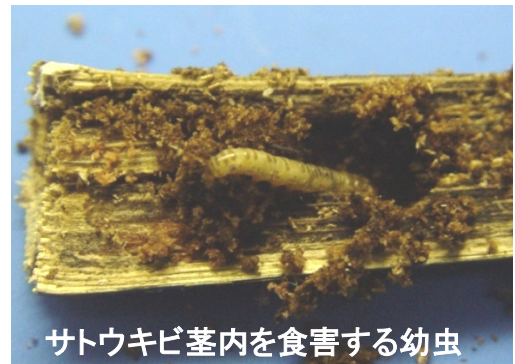


蛹

クロテンオオメンコガ

学名 : *Opogona sacchari*

英名 : Banana Moth



サトウキビ茎内を食害する幼虫



パパイヤ樹幹部の食害



パインアップル吸芽を食害する幼虫

生態と被害

※写真提供: 沖縄県農業研究センター

本種は、1986年に福岡県で初めて確認された侵入害虫で、本県では1992年恩納村のベンジャミンでの被害が最初の記録と考えられている。成虫は、雌で開翅長約23mm、雄で約20mmで、前翅は暗灰色の地色に黒色の斑点を持つ。終齢幼虫の体長は約30mmで乳白色、背中に他のメイチュウ類とは異なる黒色の斑紋を持つ。中国での飼育試験では、1世代66～135日、幼虫期間が37～75日を要し、年4世代の生育が可能との報告がある。

バナナ、パインアップル、パパイヤ、サツマイモ、トウモロコシ、ドラセナ、パキラ等22科46種の植物を加害する害虫として知られ、貯蔵中の里芋や落花生、飼料や植え込み資材への加害も確認されている。本種は植物の枯死した部分を好んで摂食する習性があり、その後、健全部位まで加害していく。近年、サトウキビへの被害が問題となり始めており、採苗後放置されて腐植した部分、他のメイチュウ類などに加害された部分、台風などによる折損部分などから侵入し内部を食害する。多発圃場では、坪枯れ・面枯れとなり、収量低下や収穫茎の品質低下となる。

平成21年3月26日

沖縄県病害虫防除技術センター